



市町村のまちづくり

スポーツの振興，新たな交流やにぎわいの創出につながる スポーツコンベンションの拠点

～ アダストリア みとアリーナ ～

水戸市市民協働部体育施設整備課 本田 順一

■はじめに

水戸市は、1889（明治22）年4月に、日本で最初に市制を施行した全国31市の一つであり、2019年4月に市制施行130周年を迎えました。この節目に合わせ、市制施行130周年記念施設であるアダストリアみとアリーナ（東町運動公園体育館）は、市民スポーツの振興とともに、新たな交流やにぎわいの創出につながるスポーツコンベンションの拠点施設としてオープンしました。

本市では、民間活力を活用した効果的で持続可能な施設運営を図るため、ネーミングライツ（施設命名権）を導入しており、本アリーナは、本市で創業し、国内外でアパレル事業を展開している株式会社アダストリアがネーミングライツスポンサーとなりました。



北西側上空からのアリーナ全景

■整備事業の経緯と背景

本アリーナが立地する東町運動公園は、1957（昭和32）年に県整備の運動公園として開設しました。体育館をはじめ、テニスコート、プール等の施設を有し、多くの市民に親しまれてきましたが、老朽化が激しく、その解消が課題となっていました。

同公園は、本市の中心市街地に隣接し、優れた立地条件を備えています。本市では、体育館の建替え整備を進めることによって、日本三名園の一つ偕楽園や県立歴史館、中心市街地への回遊性の向上によるにぎわいの創出や周辺地域への経済波及効果が期待できること、国や県

の支援により本市の財政負担の軽減が図れることなどを総合的に判断し、同公園を県から譲り受け、市有施設として新たな体育館の整備に取り組むこととしました。

■アリーナの位置づけ

将来にわたって、子どもから高齢者まで、広く市民がスポーツや健康づくりに親しむことができる市民スポーツの拠点として、また、プロスポーツや全国規模のスポーツ大会等を誘致可能な、スポーツコンベンションの拠点となり得る多機能型のアリーナを有する施設としました。さらに、多くの方が集まる大規模な会議や様々な展示会等、多目的に利用可能な施設にするとともに、防災拠点としても活用できる施設としました。

■整備における課題・対策・工夫

本市では、本アリーナをはじめ、市役所新庁舎、新ごみ処理施設、新市民会館の4大プロジェクトを推進しています。そのような中、本アリーナは、2019年開催の「いきいき茨城ゆめ国体」の会場となっており、事業費の縮減を図りながら、限られた期間の中で、事業を円滑に、かつ確実に推進する必要がありました。

そのため、本事業においては、モデル事業として国の支援を得ながら、設計段階から施工予定者が関与するECI（アーリー・コントラクター・インボルブメント）方式を採用するとともに、CM（コンストラクション・マネジメント）方式を導入しました。その結果、技術提案、工期の短縮、専門的な工法、安全性の確保など、施工予定者からの様々な提案により、事業費を抑制することが可能となり、確実な予算管理を行うことができました。また、当初の想定より早く工事が完成し、国体に向けて十分な準備期間を確保することができました。

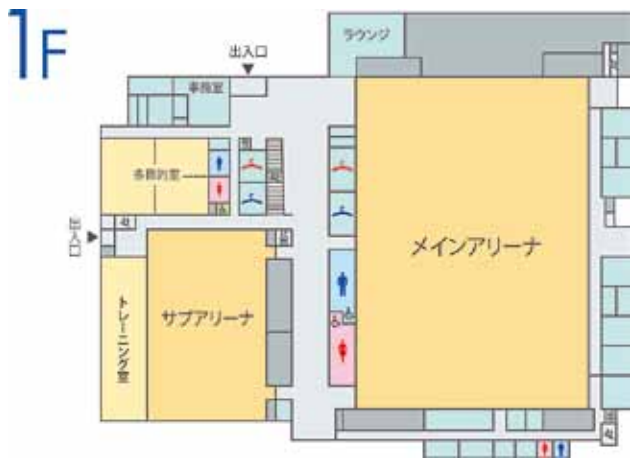
■「する」「みる」スポーツに対応した機能・設備

本アリーナは、メインとサブの2つのアリーナを擁しており、ロビーを介して隣り合う配置とすることで、大規模大会等の開催時において連携した使用を可能としています。

収容人員5千人を誇る県内最大級のメインアリーナ



は、複数のスポーツの公式基準を満たすフロアサイズとして、バスケットボールコート3面分の広さを確保しています。固定席に加え、電動式可動席を設置することにより、臨場感のある観戦が可能であり、手動の移動式可動席を使用することにより、様々な観戦形態に対応が可能です。また、南北の壁面に設置した約260インチの大型映像装置とともに、音響、映像システムにより、各競技における得点表示や選手紹介に加え、ライブ映像やリプレイの表示など、音と映像による迫力ある演出を提供することを可能にしています。さらに、床面は1㎡当たり5tまでの荷重に耐える構造としており、車両の展示をはじめ様々なイベントに活用が可能です。



アリーナの1階平面図

市民の健康志向の高まりを踏まえ、多様なトレーニング、運動ができるトレーニング室を整備しており、専用の玄関、受付窓口、更衣室を設置することにより、アリーナでの各種大会、イベント等の開催時においても利用が可能です。



トレーニング室

■管理・運営、スポーツ振興

本市では、市民サービスの向上や経費の縮減を図るとともに、専門的な知識、経験を有するスタッフによる効

率的な施設運営を推進するため、指定管理者制度を導入しています。本アリーナも、既存の体育施設と同様に、本市と連携し、スポーツの振興に関する様々な事業を実施している公益財団法人水戸市スポーツ振興協会を指定管理者として選定しています。

本アリーナは、プロバスケットボールチーム「茨城ロボッツ」のホームアリーナとなっており、2019年4月6日開催のオープニングゲームでは、B2リーグ新記録となる約5千人が観戦し、大いに盛り上がりました。その後もeスポーツ選手権、バスケットボール女子日本代表戦、全国中学生レスリング選手権大会、全日本ドッジボール選手権全国大会、いきいき茨城ゆめ国体（レスリング、フェンシング等）、市制施行130周年記念式典、Vリーグなど、複数のスポーツ大会、イベントが開催され、多くの皆様に来場いただきました。

本アリーナの特性を最大限に活かしながら、新たな交流やにぎわいの創出につながるスポーツコンベンションを開催、誘致するなど、スポーツ文化の振興に向けた取組みを積極的に推進し、水戸市全体の活性化につなげていきたいと考えています。



2019年4月6日の茨城ロボッツホームゲーム

■まとめ

アダストリアみとアリーナは、国、県の支援のもと、円滑、着実に事業が推進し、県内最大級のアリーナとしてオープンすることができました。本アリーナの整備効果を一時的なものとするのではなく、本市の将来に向けて、大きな飛躍につなげることが重要となります。将来にわたって、広く市民にご利用いただき、愛され親しまれる施設となるよう、魅力ある交流拠点の形成に向けて、適切な管理、運営を行うとともに、各種スポーツ教室、大会、イベント等の開催を通じて、スポーツを楽しみながら交流できる環境づくりを積極的に展開し、にぎわいの創出や交流人口の増加を図っていきたいと考えています。